

令和7年度第2回加東市いじめ問題対策連絡協議会次第

日時：令和8年2月17日（火）

10時00分～

会場：加東市役所5階501会議室

1 開会

2 自己紹介

3 議事

（1）令和7年度いじめの状況について . . . 資料1

（2）加東市立学校のいじめ防止に関する取組について . . . 資料2

（3）関係機関との連携について

（4）いじめ重大事態について

4 その他

5 閉会

令和7年度 加東市いじめ問題対策連絡協議会 委員

(任期) 令和6年4月1日から令和8年3月31日 (2年間)

所属等		役職	氏名	備考
1	兵庫県加東こども家庭センター家庭支援課	課長	落合 恵子	(4)加東こども家庭センター
2	神戸地方法務局社支局 総務係	係長	石田 貴之	(5)神戸地方法務局社支局
3	兵庫県加東警察署 刑事生活安全課	上席係長	衣川 弘文	(6)兵庫県加東警察署
4	加東市立滝野中学校(校長会生徒指導担当)	校長	小林 豊茂	(1)加東市立学校
5	加東市 健康福祉部 福祉総務課	係長	武田 大基	(7)市関係課
6	加東市教育委員会事務局 こども未来部	参事兼 学校教育課長	井上 裕子	(2)加東市教育委員会事務局
7	加東市教育委員会事務局 こども未来部 学校教育課 青少年センター	所長	花田 和典	(3)加東市青少年センター
8	加東市立学校	スクールソ シヤルワーカー	宇仁 光浩	(2)加東市教育委員会事務局

事務局		役職	氏名	備考
1	加東市	教育長	藤原 路寛	
2	加東市教育委員会事務局 こども未来部 学校教育課	副課長	森本 恭央	
3	加東市教育委員会事務局 こども未来部 学校教育課	副課長	中山 庸平	

令和7年度 いじめの状況について

※いじめの定義

「いじめ」とは、「児童生徒に対して、当該児童生徒が在籍する学校に在籍している等当該児童生徒と一定の人間関係にある他の児童生徒が行う心理的または物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）であって、当該行為の対象となった児童生徒が心身の苦痛を感じているもの」（いじめ防止対策推進法（平成25年法律第71号）第2条第1項）をいう。

※いじめ認知件数

「認知件数」には、各年度間において、上記の定義に該当するいじめを受けたことが認知された児童生徒ごとに1件として数える。この際、同一の児童生徒が異なる時期に別の児童生徒からいじめを受けていても1件として扱う。（児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査（毎年度文部科学省調査）の注釈より）

1 令和7年度いじめ認知件数（令和7年12月末時点）

小学校：49件 中学校：11件 合計：60件

2 経年比較（数値は各年度12月末時点のいじめ認知件数）

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
小学校(人)	236	168	147	87	49
中学校(人)	22	21	17	20	11
合計(人)	258	189	164	107	60

3 令和7年度 月別件数（令和7年12月末時点）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
小学校(人)	5	9	6	12	0	2	6	8	1
中学校(人)	3	1	0	1	0	3	0	3	0

4 所属学年比較

校種	小学校						小計	中学校			小計	計
	1年	2年	3年	4年	5年	6年		7年	8年	9年		
人数(人)	1	8	15	10	10	5	49	4	5	2	11	60

5 いじめの態様別

項目	人数(人)
① 冷やかしやからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる	26
② 仲間はずれ、集団による無視をされる	3
③ 軽くぶつけられたり、遊ぶふりをしてたたかれたり、蹴られたりする	11
④ ひどくぶつかられたりたたかれたり、蹴られたりする	0
⑤ 金品をたかられる	0
⑥ 品を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする	6
⑦ 嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする	13
⑧ パソコンや携帯電話等で、ひぼう、中傷や嫌なことをされる	1
⑨ その他	0
計	60

※児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査票 調査7いじめの態様より

※①～⑨の態様を計上するにあたり、複数の態様がある場合は、主たる態様を判断して計上

6 結果及び分析

- ・昨年度同時期と比べて、いじめ認知件数（合計）は47件減っている。
- ・学校種別に比較すると、小学校のいじめ認知件数は38件減っており、中学校のいじめ認知件数は9件減っている。
- ・いじめ認知件数は令和4年度から減少傾向が続いている。これまで取り組んでいる児童会・生徒会・学園生会が中心となり、児童生徒が主体となったいじめを防止する多様な活動を行うなどのいじめ未然防止対策の効果が現れてきていると考える。その一方で、いじめを見逃していないか、絶えず確認する必要がある。
- ・月別に比較すると、学校生活に慣れてきた5月や教育委員会が実施している生活アンケート（学校生活実態把握調査）を実施した7月と11月の認知件数が多い。生活アンケートでいじめと認知する場合もあり、今後も児童生徒の相談窓口の手段として継続する。
- ・所属学年で比較すると、学年が上がるにつれて、徐々にいじめ認知件数が減少していることから、発達段階に応じて、コミュニケーション力が身につく、人間関係が構築されると、いじめ認知件数が少なくなっていく傾向が見られる。昨年度までは、校種が変わったときに、いじめ認知件数が多くなっていたが、本年度はそれが見られなかった。東条学園小中学校が5年目を迎え、社学園小学校・中学校が開校したことを受け、7年生への進級時の増加は今後減少するものと考えられる。
- ・いじめの態様において「冷やかしやからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる」「軽くぶつけられたり、遊ぶふりをしてたたかれたり、蹴られたりする」「嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする」が上位3つの態様であった。

- ・「パソコンや携帯電話等で、ひぼう、中傷や嫌なことをされる」で、1件の認知があった。これは、グループラインに相手が嫌な気持ちになるコメントを送信したものである。今後もこのような SNS 等によるいじめ認知が増加することは必然となると考えられる。引き続き、いじめはどの学校にも起こり得るという危機感を持ち、児童生徒が困っていることを相談しやすい体制を整え、教師や周囲の大人が聞き取ることや、定期的に困りごとアンケートを実施する必要がある。

7 いじめを早期に把握し、未然防止する取組

- ・市教育委員会主催で年3回、学校生活実態把握調査を実施し、いじめを早期に発見する手立てを講じている。また、各学校が独自に困ったことを書ける生活アンケートを定期的実施している。
- ・加東市いじめ防止基本方針、各学校で定めたいじめ防止基本方針のもと、「いじめは、どの学級にも学校にも起こり得る」という認識をすべての教職員がもち、好ましい人間関係を築き、いじめや差別を許さない学級集団を育て、「いじめを生まない土壌づくり」に取り組む必要がある。教職員の気づき、意識調査等を通じて、いじめの早期発見、早期解決に取り組む。
- ・未然防止の取組として、各校の児童会・生徒会・学園生会代表者が、自校のいじめ防止取組を交流したり、いじめ問題の解決に向けて話し合ったりすること、また、教職員が居心地の良い学級づくりの研修を行うことで、児童生徒と教職員が両輪となり、一人一人を大切に学校・学級づくりを目指す。

加東市立学校におけるいじめ問題防止活動実施報告

1 実施計画

学校名	取組名
社学園 小学校・中学校	ぼかぼかキャンペーン
滝野東小学校	全校バザー集会を通して他学年とふれあい、仲を深めよう
滝野南小学校	広げよう あいさつの (輪) つながろう 南っ子の (和)
滝野中学校	STOP 第三者! ～見て見ぬ振りは許さない～
東条学園小中学校	学園生全体のつながりを深め、お互いを知ることはいじめ防止に繋げる取組 ～学園会活動での児童生徒の主体的な活動を通して～

2 実施報告

(1) 社学園小学校・中学校 【資料2-1】

(2) 滝野南小学校 【資料2-2】

加東市立学校におけるいじめ問題防止活動実施報告書

1 実施報告

学校名	取組名
社学園小学校・中学校	ぽかぽかキャンペーン ～ あったか〜い社学園 ～



2 活動内容

(1) 目的

児童生徒が自分自身の頑張りや、周囲の人のよい行動に目を向け、互いを認め合うことで、いじめのない温かい学園の雰囲気をつくる。

(2) 内容

- ①自分の頑張りや、友達・周囲の人のよい行動を見つけ、付箋に記入し、各クラスに掲示した模造紙に貼付した。
- ②各クラスで5枚の「ベストペタ褒め」を選出し、昇降口および交流棟に掲示することで、全校で共有した。
- ③中学生が小学校へ出向き、ぽかぽかキャンペーンの趣旨を説明するとともに、いじめのない温かい学園づくりについて啓発活動を行った。その後、全校児童生徒からポスターおよび活動スローガンを募集した。ポスターはすべて校内各階に掲示し、スローガンについては全学年の意見を踏まえ、「あったか〜い社学園」に決定した。

(3) 実施期間

第1回 7月7日（月）～11日（金）

第2回 12月15日（月）～19日（金）

3 成果と課題

(1) 児童生徒の感想

- ・自分でできたことや頑張ったことを付箋に書くときに一日を振り返ることができたので、やってよかったし、達成感を味わうことができた。また、友達がしてくれてうれしかったことや、みんなが頑張っていたところに目を向け、付箋に書くことで、普段気づかなかった友達のよさを知ることができた。
- ・ぼかぼかキャンペーンでは、さらに注意して友達のよいところや優しいところを見つけることができました。友達にしてもらったことや優しさを見つけたことで自分の気持ちがうれしくなりました。また、よいところを見つけたことでさらに友だちと仲良くなって話しやすくなったと思います。
- ・普段話さない子と話すきっかけになりました。「ぼかキャン」を書くために、アンテナを張って友だちのよいところを探しました。何枚も書いている子もいてよかったです。

(2) 成果

- ・中央委員が小学校棟を訪問し説明を行うなど、小中の連携を図ることで、学園全体の交流の機会を設けることができた。
- ・付箋に自分や周りの人のよいところを記入する活動を通して、自己肯定感や他者のよさを認め肯定する力を高め、クラスや学年の温かい雰囲気づくりにつなげることができた。
- ・第1回活動後、中央委員で振り返りを行い、課題を整理した上で第2回の活動に活かした。具体的には付箋の記入が一部の生徒に偏っていた点を改善するため、朝のSTで付箋を配布し、全員が参加しやすい工夫を行った。
- ・各クラスで「ベストペタ褒め」を選出し掲示物を作成したほか、9学年全体でボランティアを募ってポスターを制作・掲示するなど、児童生徒が主体的に取り組める活動となった。

(3) 課題

- ・付箋の内容が抽象的になりがちのため、児童生徒がより具体的な行動や場面を記入できるような支援や工夫が必要である。
- ・ベストペタ褒めの掲示にとどまらず、活動の振り返りやまとめを行い、その価値を共有することで、学年やクラスを超えた交流へと発展させていく必要がある。今後も学園全体への啓発を継続し、より一層、温かく笑顔あふれる、いじめのない学園の雰囲気づくりにつなげていきたい。

加東市立学校におけるいじめ問題防止活動実施報告書

1 実施報告

学校名	取組名
滝野南小学校	広げよう あいさつの 輪 つながろう 南っ子の 和

- ・「自元明+心」のあいさつ運動を通して、子ども同士だけでなく、地域の方にもあいさつの輪を広げ、思いを伝えようと取り組んだ
- ・たてわり班活動や全校集会を通して、全校生で友達の思いやり合える和の心を育てようとした



あいさつリレー交流

2 成果と課題

(1) 児童の感想

① あいさつリレー交流

- ・いっしょにあいさつをして、2回目の方がしっかりできたので、1回でやりたい
- ・登下校ではあいさつの声が小さくなるから、どこでもがんばれるようにしたい
- ・プラス一言でありがとうの気持ちを伝えられるようにしたい

② たてわり班活動

- ・低学年に作り方を教えることができた
- ・協力して、ゲームをクリアした
- ・下級生が楽しんでくれて、うれしい



たてわり班七夕飾り作り

(2) 成果

- ・地域の方への一言が言える児童が増えてきている
- ・毎週たてわり班活動をすることで、他学年の友達とのかかわりが増え、名前を覚え、つながりが強くなっている
- ・計画に基づき、運動、制作、遊びなど、多様な活動を取り入れることで、楽しむことができている
- ・6年生は、他の班の下級生のことも気にかけるようになった
- ・プラスのつながりを築くことで、偏見や陰口が起こりにくい
- ・たてわり班そうじや草引きで、黙々と作業する文化が根付いてきている



たてわり班対抗リレー



たてわり班そうじ

(3) 課題

- ・あいさつは、月目標で取り組むと啓発が進み、多くの児童がプラス一言を意識するが、目標期間が終わると、声が小さくなってしまふ



南っ子フェスティバル